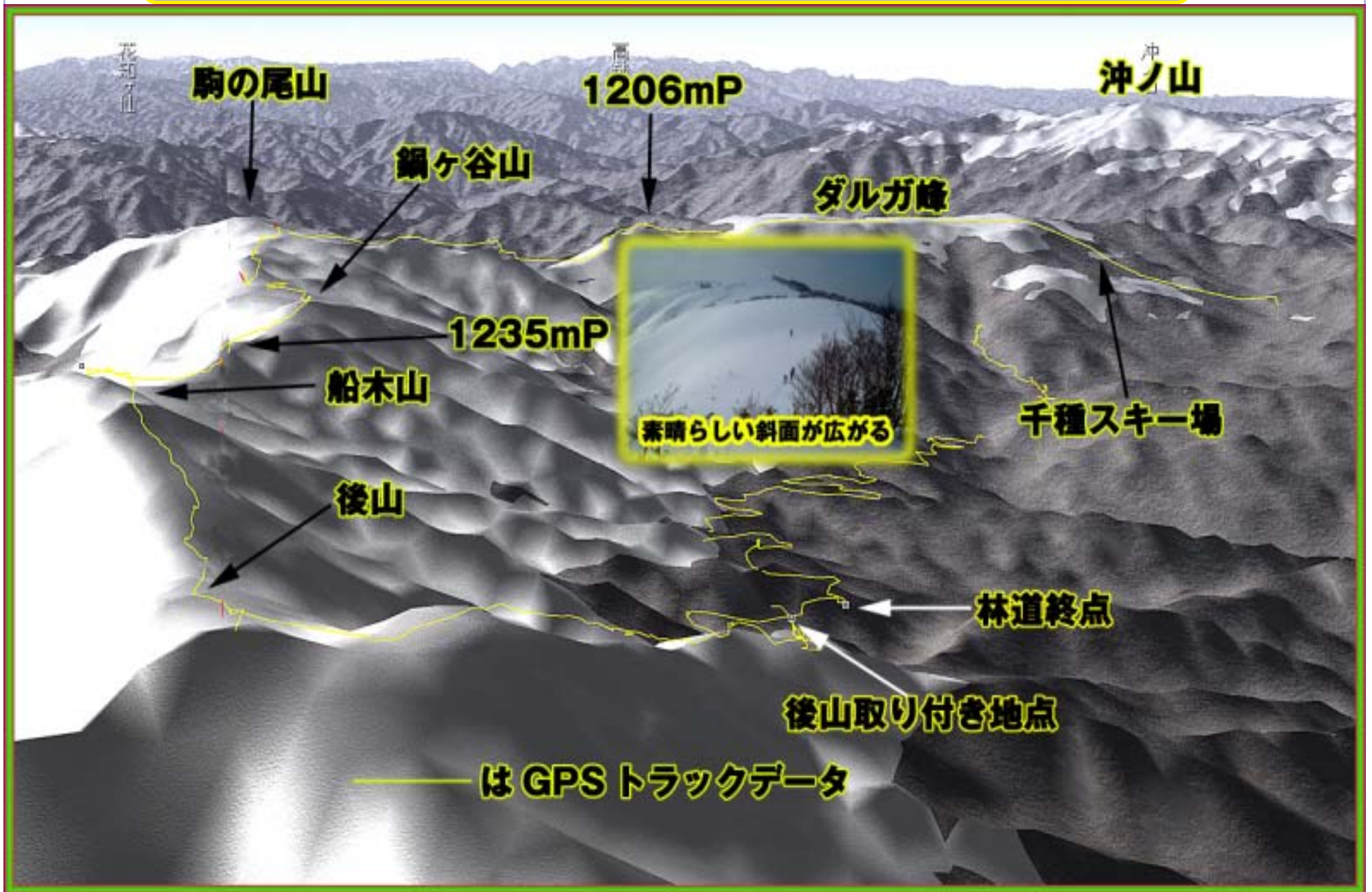


2004.01.24 後山～千種スキー場 山スキー縦走



種 目：山スキー
山 域：岡山 - 兵庫
場 所：後山 - 千種
日 時：04.01.24
天 候：晴れ
メンバー：石野・横小路・玉田・大塚・大本・田代



ロードをシールラッセルしながらみんなウキウキしながら進んでいたのだが、予定とは違うコースなので仕方なくUターン(;_;)。

300mほど下ったところに山へ入るワダチがあり、高度、GPSで再確認の上ここに間違いないと判断。再びシールで林道を登りつめること約1時間半。

9:52 地図上の林道終了地点に到達。

さあ、ここからが本日のルーフアイである。地図で見る限り後山の稜線に取り付くには簡単そうだが、現実にはなかなかそうはいかない。急峻は杉林を雪を落としながらステップを作って降り、半凍りの沢を渡らねばならない、適度なスノーブリッジを探して慎重に渡って行く。長い板を履いているからこそ可能であるがスノーシューでは完全に大穴開けてドボンであろう、スキーの行動力はたいしたものである。

さて、沢渡りが終わると今度は急峻な登りが待ち受けている。植林されたばかりの杉は雪に閉ざされて格好の斜面になっているのだが雪が落ちていないせいもありストックを突いて急斜面での切り返しをするのだが、度々ズボット入ってしまいバランスが崩れて転げ落ちそうになるのを懸命にこらえる。10回ほどジグを切っただろうか、お次はうっそうと繁る杉林のお出ましである、間隔が狭いのでとてもジ

今週は極冷えで山間部も例年になく多量に雪が降り積もり、交通もマヒする日もあった。

週間予報では終始曇りマークだったのが、この土曜日は大当たりで一日中晴れマークがついた。

これだけ降れば、ヤブ山の後山や沖ノ山も大丈夫だろう・・・まずは千種スキー場への縦走コースの後山へ照準を合わせた。

千種スキー場手前の駒の尾登山口Pに駐車して、早速にシールで登山道に取り付くが、どうも方角的にも地理的にもおかしい?・・・GPSで調べてみても間違っている。昨夜降り積もったパウダースノーが朝日を浴びてダイヤモンドを散りばめたようにキラキラと輝くスノー



林道からスタート



危ない沢渡り



後山の朝日を浴びて林道終点

グも切れない、ついにややこしい場所で
装備変更でツボ足になるが膝上ラッセル
で思うようには登らせてもらえない、寒
風が吹いているが頭からは湯気がたっ
ている。しだいに視界も開けて斜面
も穏やかになってきて再びシール登行に
切り替えて一路山頂を目指す。1200m付
近からは稜線はそこに見えているのにな
かなか辿り着かない。

12:10 後山 1334m 到着、マイナス1度
風が少々あり体感気温は今までぬく
もっていた体温がどんどん奪われて冷た
い。スコップを取り出し雪かきしてラ
メンタイムにとりかかるが手が冷たく体
も冷えてくるのでのんびりと座ってられ
ない。しかし景色は最高で三室山、沖
ノ山、東山、くらます、遠くに氷ノ山、
扇ノ山が雪化粧をしているのが確認
できる。



駒の尾山避難小屋へ、素晴らしい雪原

ここからは稜線づたいでシールで滑っ
ては登りの連続で船木山 1334m、鍋ヶ
谷山 1253m、駒の尾山 1280m へと素
晴らしい雪世界を堪能しながら一列縦
隊で2本のトレースを刻んで行く。
特に鍋ヶ谷山から駒の尾山までの稜
線歩きは北アルプスにも劣らぬ絶景
の雪景色が広がっている。

14:32 駒の尾山避難小屋

後山を1時10分にスタートして約1時
間20分でここまで来れるのは山スキ
ーゆえんであろう。

この小屋は十分な広さがあるがコン
クリート作りなので寒々としていた。
小屋には単独登山者がワカンで来て
いた。車は我々を同じ所に停めて駒
の尾山登山口から来たと言っていた。

時間もまだ早いと踏んで、小屋にザ
ックをデポして山頂へと登りつ



杉林を急下降



駒の尾山、沖ノ山をバックに後山山頂



素晴らしい稜線歩き

めて、一本南西方向の急な斜面へ滑るが、5ターンほどすればすぐに林になるので今ひとつ楽しめないが、この縦走中では唯一の滑降斜面である。

16:02 1206m ピーク

駒の尾山からは再びシールを付けて小ピークをいくつも越えていくと1130m地点のコルに着く、ここが駒の尾山へ上がってくるジャンクションである。我々はそのままこのピークを目指して登りつめるが、これがなんともやっかいなヤブ漕ぎで最後の50mほどは雪壁登りそのものであきらかに、木の枝を掴みながらのツボ足ラッセルでなんとか登りつめた。しかし石野氏は果敢にもエッジを木に食い込ませて器用に最後まで登っていた。しかしここまでは距離的には知れているのに猛烈なヤブでこんなに時間がかかるとは思ってもよらなかった。夏道は地図では西側にあるようだがこの大雪では全く分からなかった。

なんとこのピークには3本のスキートレースがダルガ峰方面から付いていた。

16:25 ダルガ峰ジャンクション

ピークからのダルガ峰まではブッシュ帯のとんで



駒の尾山山頂より滑降



急斜面のブッシュ帯にあえぐ



だだっ広い杉林のダルガ峰

もない急斜面が続いている、幸いにも先行者のトレースを頼りに滑っていくが全くもって快適ではない。シール滑りなのでとにかく気を抜けばいつ転ぶかわからない状態である。

ジャンクションでは大芽方面と千種方面の両方からのスキートレースが付いているが、あと30cmも積もれば道標も隠れて全く分からない杉林の平原帯である。持参している赤布とテープを木に巻き付けてマークをする。しかし両方のトレースもこの1206mピークをピストンしているが、全く楽しい滑りにならないのにスノーハイクでもしにきたのだろうか?、しかしクロカンスキーでは十分に楽しめるコースである。

16:50 千種スキー場到着

ダルガ峰は杉林の巨大平原であるが地図上で1100mより下らなく北北東にとっていけばスキー場に辿り着くのだが、事前に入力している高性能GPSはばっちり読みとってくれていてこの平原でもスキー場を狂い無く指していたのには信頼できるギアである。

17:30 駐車場到着

スキー場をアツという間に滑り降りて・・・本日の唯一の楽しめた滑降バーンでした(^_^;)。



駒の尾山への稜線は素晴らしい斜面が広がる

PS.

一言でいうならこの縦走コースは山スキーでは楽しめないの部類です、でもスノーシューよりは遥かに行動力があります。後山から駒の尾山までの稜線は天候が良ければ最高の景色が満喫できます。

終始トップでラッセルを頑張ってくれた石野さん、ありがとうございました。

このタフなコースを面白かったと根っから喜んでいた恵ちゃんには男衆5人とも脱帽です、板を履けばホワイトワールドに羽ばたくバードエンジェルにかんぱーい(^o^)

あらためてGPS のすごさには驚かされました。



後山からの軌跡



駒の尾山山頂より三室山を望む